

先人たちの足跡 No.4 「開拓期の農業」

幌延町の基幹産業である酪農業が始められたのは、昭和13年(1938)に北海道製酪販売組合連合会幌延工場が操業を開始した頃からで、本格的に酪農の形が整えられたのは戦後の昭和30年代で、それまでは農業の中心は畑作物栽培でした。

開拓者が入地して木を切り倒し、火を入れて焼き払った跡地に作物を蒔き付けましたが、3、4年の間は食料の自給が第一で、換金作物がなく非常に苦勞を強いられました。

当時の畑作物のうち、自給用として最初に作られたのはソバ、ヒエ、アワ、稲キビ、馬鈴薯、トウモロコシ、南瓜などでした。開墾後何年かして余裕ができてから、販売用の作物として菜種、燕麥、豆類などが作られ始めました。

○馬鈴薯

初期の開拓者にとって、馬鈴薯は主食並みの自給作物として重要な地位にありましたが、後に北海道を代表する商品作物となり、冷害に強く収穫の点でも安定し、開拓民の農業生産において成績良好で安定した収穫をあげました。馬鈴薯が商品としての性格を持ったのは明治30年代以降のことで、それは澱粉生産が発展する時期と一致します。

幌延では、明治40年ごろになって馬がぼつぼつ導入され、プラオ農法が各農家に普及するにしたがって耕地面積もふえ、豆類や馬鈴薯も作付けされるようになりました。特に馬鈴薯は冷害に強いうえ、換金作物として有利であることから作付面積が急速に広がりました。

本町の澱粉製造は、大正3年(1914)吉田鉄治氏が間寒別川口に澱粉工場を始めたのが最初とされ、その後幌延町の各地区に工場が建てられたが、昭和40年(1965)にはその姿を消しました。その間、幾多の景気変動があり、一時期は「澱粉景気」とか「澱粉成金」などという言葉も生まれました。

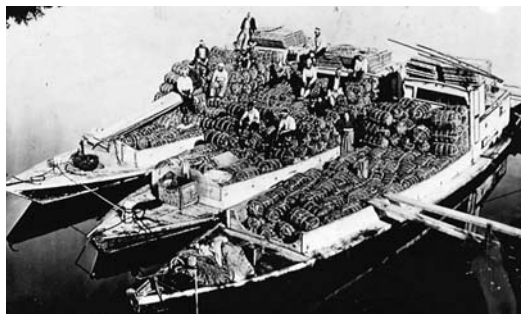
大正3年、第1次世界大戦がはじまると欧州への農産物輸出、特に澱粉、豆類、ハッカ、除虫菊などが高値を呼び、これらの主要産地である北海道の作物地帯は空前の活況を呈しました。

○燕麥

燕麥は、寒さに強くどんな土地にもよく育ったことから、開拓当初から栽培されました。馬産地の北海道では馬糧として重要であり、平常は木材搬出馬の、また戦時には軍用馬の馬糧に必要であったことから、需要はきわめて高かったです。昭和6年幌延村事務報告における農産物の項目を見ると、燕麥の作付面積が1,737町9反と最も多く、価格は95,566円で農産物全体の約4割を占めていましたが、現在は馬の飼育の激減により燕麥の作付けは皆無の状態にあります。



馬鈴薯の収穫



燕麥運搬船

お問い合わせ先

役場総務課企画振興グループ 電話01632-5-1111(内線222,223)



暮らしぶりの映し～北の光が続く道～

▼第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテストの応募を締め切りました。10月に審査会を開催予定です。今回も最優秀賞(5万円相当)、優秀賞を受賞された方には副賞として留萌管内の特産品が進呈されます。



第1回萌える天北オロロンルートフォトコンテスト最優秀作品

ルート加盟団体からのお知らせ

- 留萌地域情報受信システム実行委員会
- ▼るもい fan.net
ルート内の情報が満載です。毎日更新中ですので、是非ご覧下さい。
- ▼るもい fan 通信
毎月20日に発行しているフリーペーパーです。各市町村役場、観光施設、留萌信用金庫各支店、郵便局などに設置しています。
- ▼るもい fan わがマチ元気発信!
毎月第2、第4土曜日午前11時30分から76.9MHzで放送中です。

萌える天北オロロンルート

ルート活動報告

▼萌える天北オロロンルートのホームページが完成しました。ルートの内容がわかりやすく説明されているほか、各プロジェクトの活動報告も掲載しています。

<http://rumoifan.net/moeten/>

お問い合わせ

- 萌える天北オロロンルート運営代表者会議事務局
電話 0164-42-3871 FAX 0164-42-2200
メール tenpoku-ororon@moeru.fm
- シーニックバイウェイ北海道情報
<http://www.scenicbyway.jp/>